

『蒙古襲来絵詞』第2巻 第9紙～第12紙

季長の従者たちは、生の松原を出て御厨に向かい、侵略するモンゴル軍と対面します。武士たちは前に座り、鎧で識別される一方、船頭たちは後ろで漕ぎます。この小さなグループ内にはさまざまな表情が見られることに注目してください。絵巻物で一般的な絵画の手法である霞の雲が、シーンに奥行きを加えています。季長はこの船にはおらず、早くモンゴル軍に到達したいとしびれを切らし、すでに先に出航しています。彼の不在は、彼が登場するはずの巻物の一部が失われたことを示唆しています。しかし、欠けている部分は、絵巻の特に印象的な部分を切り取り、掛け軸などとして再額装する事があったため、損傷によって失われた訳ではない可能性があります。